

市長の 施政方針を 問う



～代表質問～

日永貴章市長は、自らが思い描く今後の愛西市のまちづくりの施政方針説明を行いました。説明に対し、各会派から質問が行われました。

持続可能な財政運営、 公共交通サービスの確保

新生クラブ

原 裕司



Q 令和8年度当初予算編成と今後の取り組みは。

めた。

A 合併に伴う地方交付税の算定特例が終了し、財政運営は厳しい局面を迎えている。持続可能なまちづくりのために、事業の有効性や必要性を精査し、基金への過度な依存から脱却を図るよう努

市独自施策である18歳年度末までの子ども医療費の無償化など、各種施策を継続し、予算編成を行うことができた。第4次行政改革大綱のもと、物・人・金の投資資源を最大源に活用し、持続可能な行財政運営の実現を目指していく。

まちは、物・人・金の投資資源を最大源に活用し、持続可能な行財政運営の実現を目指していく。

第4次行政改革大綱のもと、物・人・金の投資資源を最大源に活用し、持続可能な行財政運営の実現を目指していく。

Q 地域公共交通の構築に向けた取り組みは。

A 地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、無料巡回バスを土台に、鉄道駅や道の駅などの拠点をつなぐ基幹ルートの効率化を図り、実証実験の必要性に応じて検討し、実情に即した新たな交通手段の導入も柔軟に検討していく。また広域的な検討も必要と考える。

インフラ整備は最重要 拓く愛西の未来

中村文武



Q 佐屋駅周辺整備の進捗は。

買収、物件補償を行っていく計画だ。

A 関係機関との協議を重ね、駅西側、東側全体の基本設計を行っている状況だ。

Q 4駅を中心としたまちづくり事業の進捗と整備時期は。

令和8年度においては、駅西側の駅前広場の実施設計とともに、対象地区の用地測量、物件調査を実施した。その後、用地

8年度にまちづくりビジョンを策定し、9年度には、都市計画マスタープランに4駅周辺を優先的に市街地整備を進める

拠点として位置付けたい。公共交通の整備について、今のシステムのアレンジをいつまでに進めるのか現時点で時期を示すのは難しいが、協議会の場において議論し、具体的なロードマップも示せる。

計画策定を再優先の施策として取り組み、アンケート、乗降調査、実証実験についても検討し、実効性の高い計画の策定を目指す。